



ヒミツの
訓練大公開!

災害救助犬の能力とは!?

自然災害が発生すると、ビルや家が倒れて人が下敷きになってしまうことがある。どこに人がいるのかわからなければ、救出もできない…そこで活躍するのが災害救助犬! 優れた嗅覚を活かして瓦礫や土砂の下の人を探し出すのだ。そんな特殊技能を持った災害救助犬はどのように訓練されるの!? 普段はなかなか見ることができないトレーニングについて、訓練士の中口靖男さんにお話を伺い、現場に潜入してきたゾ!

←東日本大震災で生存者の探索にあたる救助犬チーム。
(写真提供/ジャパンケネルクラブ)

人の100万倍の嗅覚とトレーニングがカギ!

災害救助犬が被災者を探す上で武器になるのが、優れた嗅覚だ。人の体臭に含まれる酢酸を嗅ぎ分けるイヌの能力は、人の100万倍から1億倍も鋭いといわれており、瓦礫のすき間から漏れ出

る微かな臭いも察知して人を探すことが可能なのだ。しかし、いくら優れた嗅覚を持っていても、人を探すことを学ばなければ災害救助犬になることはできない。そこで、訓練が必要となる。

本格的な訓練を受ける前に、生まれてから4～6か月までの間は、パピー・トレーニングという初歩的な訓練を実施する。人や仲間のイヌを噛んだり、無闇に吠えるようなことがないように躾けるのだ。そこで社会性が身に付いたら、次に服従訓練が行われる。訓練士の指示に従い、確実に「マテ」、「フセ」、「オスワリ」などができるようになるための訓練だ。一見災害救助とは関係ない、ごく基本的なことに見えるけど…? この疑問に中口さんが

基礎能力を高めるトレーニング

ウィズ (シェットランド・シープドッグ)



指示された場所へ!

↑訓練士が指示した方向へ駆け出し、目的の場所まで待機。難易度は高いが、災害救助犬には必要。



脚側行進

↑つねに訓練士に従って歩く訓練。



はしご

↑すき間に足をとられないよう一歩一歩慎重に歩いていく。

→暗い場所にも臆せず行くため、筒の中をくぐる。

↓台の向こう側にはごほうびのボールが! 乗り越えられるかな?



バレルブリッジ

↑歩くたびに前後に揺れる不安定な足場を渡る。



トンネル

暗くても平気!



ジャンプ台

もうすぐ傾くな...



シーソー

シーソーが傾く衝撃に耐えられるかな?

こうしてなれる! 災害救助犬

生後約4か月くらい

パピー
トレーニング
他人や他犬と
良い関係を築けるよう
躾ける

約4～6か月後

基礎能力を
高める
トレーニング
(P23) など

隠れた人を
探す
トレーニング
(P24) など

人工の
災害地での
トレーニング
(P24) など

約2年後

認定
試験

服従訓練 マテ・フセ・オスワリなど



隠れた人を探すトレーニング 初級編

こう説明してくれた。

「災害現場には被災した人たちを助けるために自衛隊や消防署などから多くの人が駆けつけています。訓練士の指示を無視して、そういう人たちにじゃれつくようでは、災害救助犬としての役割は果たせません。ブルドーザーやショベルカーなどが作業する大きな音や臭いもあります。普段の生活環境とはまったく異なる災害現場でも、訓練士の指示に従って行動できるように服従訓練が必要なのです」

基礎的な訓練とはいえ、服従訓練で身に付けなければならないことは多い。この段階で災害救助犬になることを断念するイヌもいるのだ。

いよいよ訓練施設に潜入!

訓練士の指示に従うことができるようになると、いよいよ本格的な訓練に移る。訓練施設には、足場の不安定な実際の災害現場でも動き回ることが

できるようになる能力を身に付けるさまざまなトレーニング道具がある。訓練の様子を実際に見せてもらった。

例えば、樽に似た円筒の上に板が乗せられた“バレルブリッジ” (23 ページ参照)。上に乗るとゆらゆら揺れ、ここを渡り切ることでバランス感覚を養うのだ。瓦礫の下に入っていくこともあるため、暗い“トンネル”を通り抜ける訓練も行う。

さらに、災害救助犬ならではの訓練が、「隠れた人を探す」かくれんぼのトレーニングだ。

「最初はイヌが最も慣れた訓練士が隠れます。はじめは、どこに隠れるのかを見せておくので、イヌは遊びたいから訓練士のところに駆けつけていきます。訓練士がいるところで吠えれば、エサやボールなどの遊び道具を与えます。これで隠れた人を探すことを学べます」(中口さん)

隠れる場所を見せておいて探させるなんて、どんなイヌにもできる…と思うかもしれないが、こ

れは人を探すことを学ぶ

ためにとても大切な第一歩なのである。

次に、隠れた場所を教えなくて探させる訓練を見せてもらった。イヌはどこに隠れているのかわからないので、匂いを頼りに訓練士を探す。

しかし、親しい訓練士ばかりを探させていたら、誰かわからない人を探すのではなく、訓練士を探すことが役目なんだと理解してしまうかもしれない。どうしたら、実際の災害現場で瓦礫や土砂の下にいる知らない人まで探せるようになるの?

「親しい訓練士を探せるようになったら、同じ訓練を別の訓練士、そして知らない人へと難易度を上げて行きます。隠れている人の匂いに反応して吠えることができたならごほうびをあげることを繰り返すことで、イヌは“瓦礫や土砂の中の人を見つける”と学習するのです」(中口さん)

服従訓練から、人を探す訓練や体力を養う訓練

など、災害救助犬になるために、いかに多くの訓練を受けなければならないかわかっただろう。中口さんがこう続ける。

「訓練士が大丈夫だと判断すると、災害救助犬として認定してもらうための試験を受けることになります。しかし、試験はとても厳しく、合格率は高くても30%程度。10%しか合格しないこともありますよ」

みんなが飼っているイヌも災害救助犬になれるかも

厳しい試験に合格すれば、晴れて災害救助犬になれるが、災害救助犬になっても自衛隊や消防署などに所属するわけではない。普段は飼い主の下でペットとして暮らしていて、災害が発生して自治体などから要請されて初めて災害現場に駆けつける。つまり、一般の家庭で飼われているイヌが災害救助犬になることもあるのだ。

「とはいえ、小型犬だと災害救助犬になるのは無理なんじゃないの?」と感じた読者もいるだろう。実際には、トイ・プードルやミニチュア・ダックスフントでも試験に合格している。災害救助犬は積み重なった瓦礫のすき間に入っていって人を探すこともあるため、シェパードやラブラドル・レトリバーのような大型犬より重宝されることもあるのだ。

いつの日か、読者のみんなの飼い犬も災害救助犬として活躍するかもしれないね。

隠れた人を探すトレーニング 上級編

チェリー(ジャーマン・シェパード・ドッグ)

ごほうびGET!!

発見!

↓見つかったところで吠える。

ここだ〜!

ワン
ワン!

ボール!

